

はくぶつかんネット



第77号

令和5年8月～10月号
発行：宜野湾市立博物館



第31回「ぎのわんの文化財図画作品展」

受賞者の皆さま、おめでとうございます！

宜野湾市立博物館では文化財への理解と保護の精神を培って、愛郷心を育むことを目的として市内の文化財を題材にした「ぎのわんの文化財図画作品展」を毎年開催しています。第31回を迎えた今年度は、9月30日（土）から10月15日（日）の期間に市内の小学校3年生から、中学校3年生の児童生徒が描いた作品の展示をしました。今年度は小学校中学年の部（3～4年生）46点、高学年の部（5～6年生）37点、中学生の部45点の計128点の応募がありました。9月30日（土）には当館のロビーにて各部門の教育長賞、金賞、銀賞、銅賞を受賞した児童生徒の皆さまを称える表彰式が行われました。受賞者の皆さんや保護者の方々にご参加いただき、仲村宗男教育長から受賞者に表彰状と副賞が授与されました。改めて、作品をご応募していただいた児童生徒の皆さま、並びに審査委員の先生方へ深く感謝を申し上げます。



☆各部門の教育長賞☆

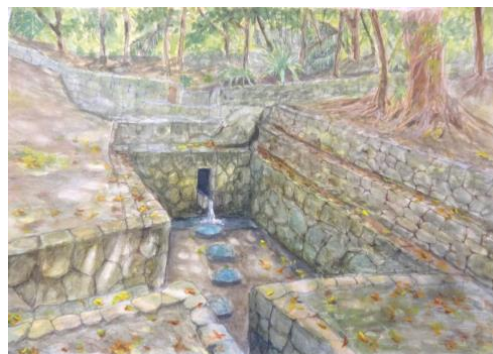
左：小学校中学年（3～4 年生）の部
中央：小学校高学年（5～6 年生）の部
右：中学生の部



當山 敦斗(普天間小学校3年生)



石神 さおり(志真志小学校5年生)



鍵溝 朱里(普天間中学校2年生)

たくさんのご応募、ありがとうございました♪



審査委員講評

★小学校中学年(3～4年生)の部

個性あふれる作品が多く、色使いが豊かでリアルに表しており、迫力がありました。絵の具やクレヨンのみならず、スタンプや新聞紙のちぎり絵など、多彩な表現方法を用いており、それぞれの作品には熱意が感じられました。

小学校中学年の部でありましたが、絵の構成がよく考えられており、すごく迫力がありました。夏休みに子供達が見て、感じたものを思い思いに表現したいという気持ちを感じ取ることができます。

★小学校高学年(5～6年生)の部

全体的にレベルが高い作品が多かったです。

細かい模様や、水の流れる様子など丁寧に表わされてる作品が多く見られました。構図を的確に捉え、一つ一つの線から熱心な取り組みが感じられました。異なる技法を駆使して作品を丁寧に仕上げる姿勢が素晴らしいです。これらの努力が作品に映し出されており、芸術的な才能が光っています。

★中学生の部

今回の中学年の部では教育長賞、金賞共に「森の川」を描いた作品となっています。描き方は三者三様で、タッチなどを工夫して木漏れ日や石積みなどの色をよく表現していました。銀賞の作品の中では、日々の生活と歴史的文化財を結びつける「人」を描いているところが新鮮でした。各作品においても、テーマへの「迫り方」画面作り、彩色の工夫がなされています。

秋の企画展「縄文時代の宜野湾」

入場
無料

／ 見に来てね～♪ ／

市内で見つかった約 3,000 年前の縄文時代の遺跡を中心に、これまでの発掘調査で分かってきたこと、まだまだナゾに包まれていることなどを紹介していきます！

◆期間：12 月 24 日（日） まで

※火曜日・祝日は休館日

◆時間：9 時～17 時（入館は 16 時 30 分まで）

65 年振りに帰ってきた
「大山貝塚の資料」も
見られるよ♪



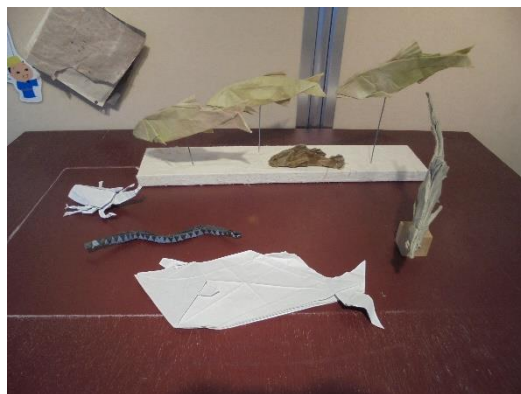
夏の企画展

シン・紙ってるね！一枚折りの動物たち

～あの動物たちが帰ってきた！！～



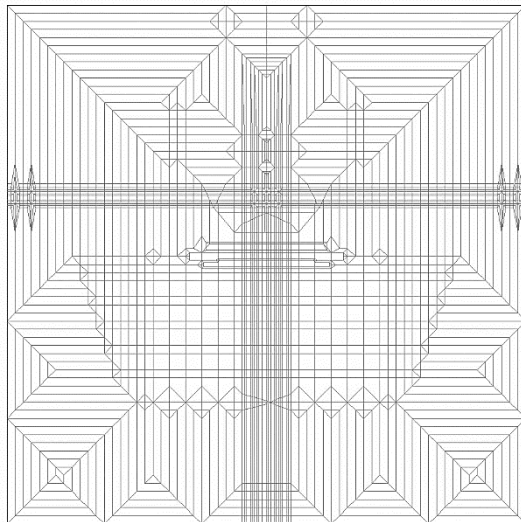
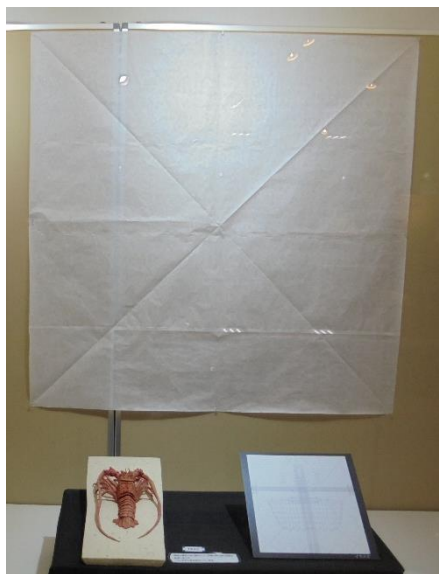
左…展示の様子
右…作品が触れるコーナー



平成29年度に行われた「紙ってるね！沖縄の動物たち」がパワーアップし、「シン・紙ってるね！一枚折りの動物たち～あの動物たちが帰ってきた！！～」となって、7月22日（土）～9月24日（日）の期間に開催されました。

今回の企画展は、前回同様「折り紙作家」の渡邊慧さんが作り出す一枚の紙で折られた作品を、各作品、前からだけではなく、後ろや真上・真横からも見るようにし、ぐるっと見られるようにしました。他にも、実際に使用している紙や最大サイズの紙と展開図を紹介し、作品の緻密さを目で感じ、実際に「紙ってる」作品を手に取り、肌で感じるといったような、各作品をじっくり観察！？できる内容となりました。他にも、3Dプリンターで本物さながらの作品を紹介しつつ、「シン・紙ってるクエスト」なる室内ウォークラリーのような催し（イベント）も行い、作品をまんべんなく見ていただきながら、人気投票も行うことができました。

期間中、3,434名の観覧者に訪れていただき、「すごく良かった。ウロコや羽の再現度が高く感動した。すごい以外の感想が出ないほど良かったです。今回はこの企画展のために来ました」、「無料でこれだけのクオリティ、感動しました」、「何度見てもあきないです。（4度目来館）」、「クイズ等あって、子供も大人も楽しめました。折紙ほんとすごくて感動しました」、「またやってほしい」といった感想がありました。期間中に台風が襲来し、臨時休館や関連事業（市民講座）の日程に変更がでたりしましたが、無事、終えることができました☆ 会期中ご観覧くださった皆さん、暑い中ご来館くださり、ありがとうございました！！



左：「イセエビ」の展開図
上：イセエビ

◇ 一番大きな紙（1.2m×1.2m）と、その紙で折り上げられた「イセエビ」と展開図



子ども達の楽しそうな声が響く、賑やかな展示会でした！



ミハ紙ってるクエスト

展示された作品の中で、人気のあった作品
ベスト3を発表！

第1位 ☆ ドラゴン

第2位 ☆ トラ

第3位 ☆ ヤンバルクイナ

クエストにご参加くださったみなさん、
ありがとうございました★



第1位



第2位



第3位

記入した作品は
／ランクインしたかな？／



見よ！このドラゴンの
皮膚感を！！……って、
伝わってますかー？

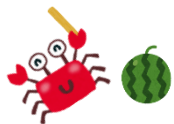
❖展示の他に関連事業として、8/13（日）と8/20（日）の2回にわたって市民講座（内容同じ）を行いました☆
受講された方からは、「展開図の説明や領域の説明がわかりやすかったです。」「色んな質問にも答えてくれる
楽しい講座でした。実際に折るところも見られて良かったです。」「とても興味深い講座だった。もう一度開催
して欲しい。」といった感想がありました。

「デモンストレーション①・②」の様子

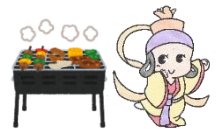


講師の
渡邊 慧さん





こども博物館教室を開催しました！



今年度も、夏休みの自由研究のきっかけ作りなどを目的に、小学3年生から中学3年生を対象とした「こども博物館教室」を開催しました。今年度は宜野湾市の歴史や生き物にまつわる3回の講座を行い、親子で合計47名以上にご参加をいただき、中には全講座参加の親子さんもありました！

ご参加をしてくださり、誠にありがとうございました！以下、今年度のダイジェストになります！



第1回：くずし字スタンプを作ろう！ ※7月29日（金）実施



普段何気なく、読んだり書いたりする「文字」ですが、「文字」とはそもそも何なのか、漢字やひらがなはいつごろから使われるようになったのかなど、「文字」について考えました。そして、江戸時代以前に主として使われていたくずし字について博物館職員が紹介し、実際にくずし字を使って消しゴムスタンプを作りました。



▲表を見ながらレイアウトを考えます。



▲消しゴムはつまようじで彫れます！



▲文書（レプリカ）や厨子箋も見てもらいました。



▲完成したスタンプです。



第2回：クモの巣標本作り（クモのヒミツ） ※8月10日（木）実施

※8月10日（木）実施



市立博物館前館長である千木良芳範先生を講師に、クモの生態やクモの巣の特徴を講演していただきました。その後、森川公園でクモの巣を探してクモの巣標本を作りました。受講者の中にはクモが苦手な人もいましたが、先生の講演を聞いて見方が変わったという感想がたくさん寄せられました。



▲クモの糸はなんと、食べることができるとのこと！※実際に食べないでください。そのほか、宜野湾で見られるクモの特徴などのお話をいただきました。



▲クモの巣は見つかるかな…



▲完成したクモの巣標本です。



第3回 野嵩に残る戦跡めぐり ※8月17日（木）実施

※8月17日（木）実施



戦時中、民間人の収容所であった野嵩に残る戦争遺跡を当時の人々のくらしや、時代背景を交えながら博物館職員とめぐりました。炎天下で熱い中ではありましたが、「戦争」を知り、「宜野湾」について考える講座となりました。



▲炎天下の中ですが、見学地の戦跡を目指して歩きます！



▲収容所での生活は過酷なものでした…



▲クシヌカーには今でもたくさんの生き物がいます！



▲以前の辺りには小学校がありました。

ここで一句… クモの糸 ねわざ見えた 新世界



市史だより がちまやあ

Gači-majaa

これまでの「市史だより」では、服装の変化について何度か取り上げてきました(72号、75号等)。そこで今回は、沖縄の女性のきものについて見ていきたいと思います。

《「沖縄のきもの」とは》

『沖縄大百科事典』（沖縄タイムス社1983年）の「琉装」の項では沖縄のきものについて、「……男女とも表衣は同型。身丈は上流の婦女用でもくるぶしをおおう程度の長さで、裾をひくことはない。襟は返襟で襟くりがなく、襟下はふつつ30cmぐらいで和服の襟よりはるかに長い。一中略一衤下りも13cm内外で和服より短く、両襟を深く違えて着る。袖は広袖で風通しがよく、亜熱帯の風土に適している。袖のつけ方は和服と異なり、身頃を袖にのせてつける。衿のばあい、ふきを作らないで表をひかえる。脇は脇スビ(襠)で縫いふさぎ、中国服の影響がみられる。一後略」とあります。



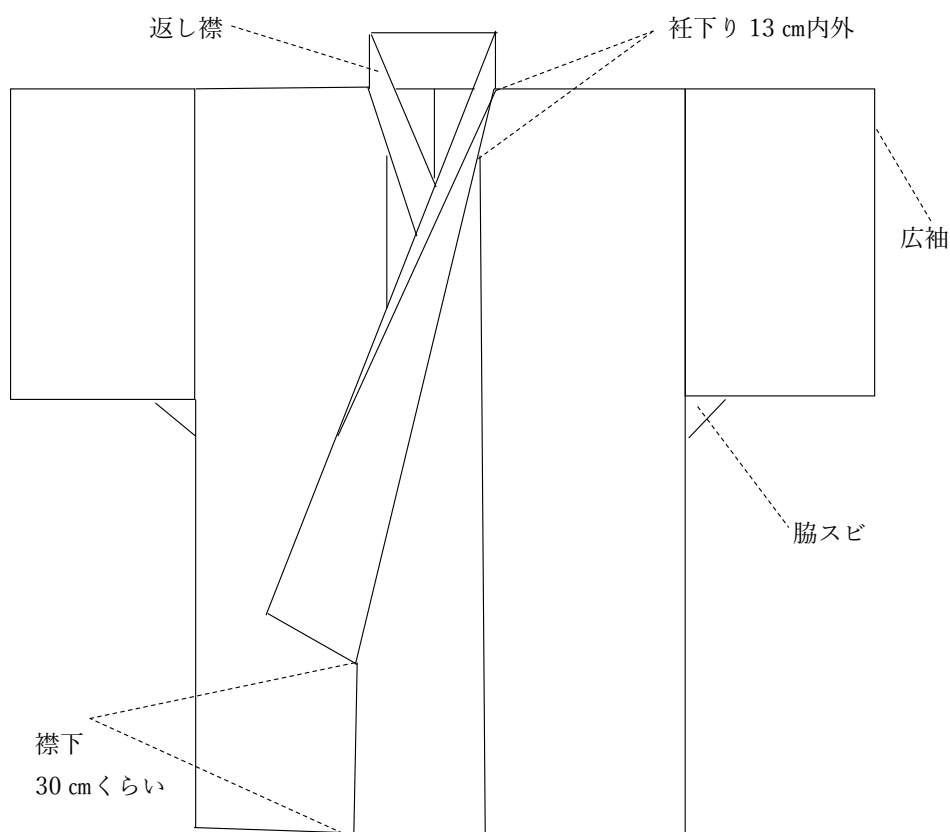
親子（宜野湾）1930（昭和5）年頃
（『写真集ぎのわん』より）

「ウツチャキ」とよばれる、帯を締めないで着用するきものの特徴が見て取れるね。



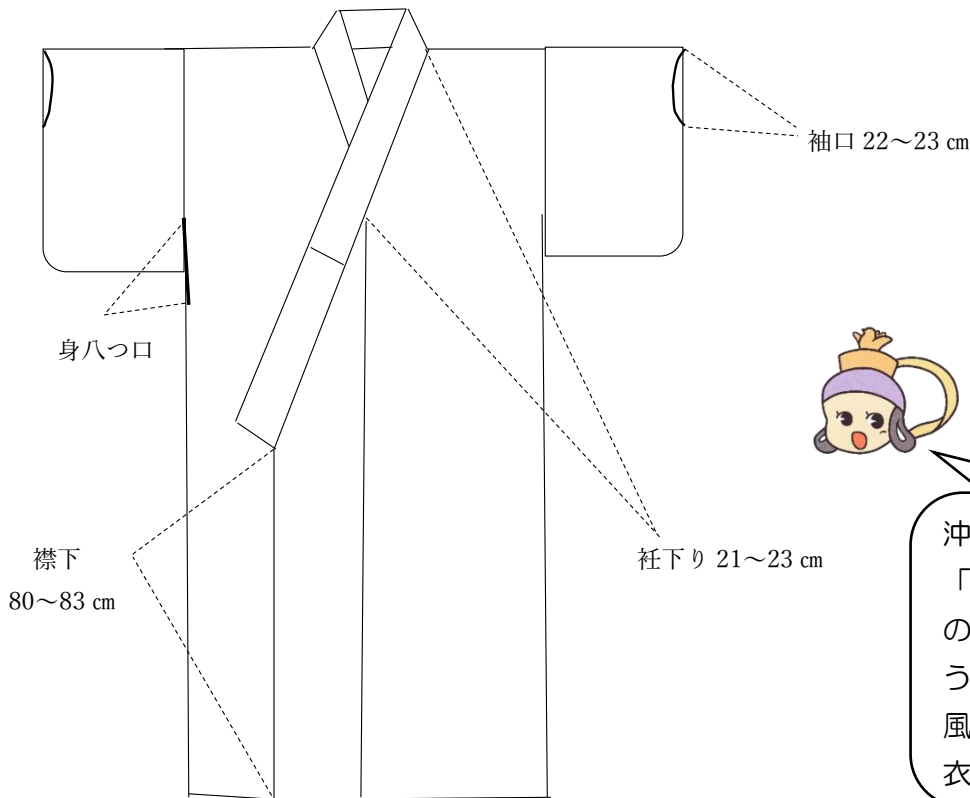
《「沖縄のきもの」の形》

上の『沖縄大百科事典』の説明をもとに、簡単な図にしてみると右のようになります。



現在の一般的な和服の形と比べてみましょう。

和服(身長 160 cmの女性用)



衿^{おくみ}や襟下など、パーツは同じでも、和服と琉装では異なった寸法で仕立てるんだね。脇に「脇スビ^{わちま}（ワチスビ・襷）」があるのも特徴だね。



沖縄の着物は、袖口の広い「広袖」であることや、女性の場合、「ウシンチー」という帯を締めない着用方法だと風が衣服を通して案外涼しい衣服だったんだって☆

『宜野湾市史』第5巻民俗編によると、宜野湾市真志喜では「ユーチャーネー」という衿（おくみ）の付かない衣もあったそうです（P91）。衿（おくみ）の付かないきものは、より古い形を残していると考えられ、それが宜野湾にも見られたのは非常に興味深いことです。

沖縄のきものは近代以降、社会の変化により着用する人は減少していきましたが、亜熱帯の沖縄の気候のもとに発達した衣服です。現在では日常着としての琉装に親しむ機会は少ないですが、沖縄の布をゆったりと纏う機能美をいま一度見つめなおしてみたいものです。

研修と実習が行われました 市立博物館では、7月に小中教員10年研修、8月に中堅教諭等資質向上研修と学芸員実習の受け入れを行いました。皆さんの感想を紹介します。

小・中教員 10年研修(7/27~28) / 中堅教諭等資質向上研修(8/16~18)

▲ 與那城 勇次 先生：長田小学校 ▲

博物館の仕事や役割はもちろんのこと、見学者（参加者）目線での企画づくりの大切さを学びました。「展示をよりよく見せる照明の工夫」「理解が深まる説明やリーフレットの工夫」「展示（企画展）と教育普及を組み合わせる事業計画の工夫」など、見学者や参加者が興味関心をもち楽しく学べる工夫は、ぜひ学校現場でも活かしたいと感じました。子ども目線に立った授業づくりや行事計画を意識して行い、子どもたちのための学校・学級をさらに目指していきたいと強く思いました。

▲ 伊禮 隼 先生：宜野湾高校 ▲

宜野湾市内の高校で働いているため、生徒が育った町の文化や歴史を学びたくて博物館での研修をお願いしました。実際に野嵩の戦跡めぐりを行って、これまで知らなかったことを学ぶ機会になりました。高校の生徒たちに話すための話の種をいただいたので、子どもたちに伝えながら、自分の授業に活かしていきたいです。学芸員というお仕事についてあまり知らない中で、研修を始めましたが、持っている専門知識の幅広さや、それを広い年齢層の方へ分かりやすく伝えるために言葉を選んだり、見せ方を工夫されていたりする姿を目の当たりにし、すごいなと思いました。自分自身も、もっともっとがんばろうという気持ちになりました。

▲ 仲間 隆博 先生：開邦高校 ▲

博物館の研修は、今後の学校教育で重要となっていく「探究活動」の基本を学ぶことができたと感じています。学校現場にもどっても、この研修で得たことを活用していきたいです。また、学校と博物館との連携や地域との連携は、カリキュラム・マネジメントの面からも重要ですので、今後、ぜひ博物館と連携していきたいと感じました。この研修での経験をもとに学校現場でもがんばっていきこうと思います。

学芸員実習(8/7~21)

学芸員実習は将来の学芸員（博物館で働く専門職）を目指す学生さん達が取り組む実習なので、結構本格的です。



▼比嘉 萌乃 さん：琉球大学▼

今回の実習を通して、学芸員の業務の幅広さをより一層実感することができました。資料を扱い、来館者に伝える業務だけでなく、館内外の整備や企画展のポスターデザインまで業務のうちに入っていることに驚き、学芸員と言う職業では多くの技術が求められることを学びました。また、大きな課題だった調査研究発表では、様々な視点で考えることの必要性を学びました。展示説明の相手が小学校3年生を相手にしたものだったため、その年代の子がわかるように噛み砕いた内容で説明すること、説明を聞く全員に見えるように資料を示すことや近くに集める誘導が必要だと発表を通して学ぶことができました。

▼上原 紗奈 さん：琉球大学▼

実習を通して、学芸員の仕事の幅が広いことにまず驚きました。資料保存や展示の解説だけでなく、開館前・閉館後の敷地内の見回りや照明の交換、館内の環境維持など、お客さんの見えない所でもやるべき仕事が多いことが分かりました。これらの作業を怠ると、博物館の安全な運営は不可能になり、資料に悪影響を及ぼすだけでなく、来館者を不安にさせてしまうので、資料保存に関わることで外も重要だと感じました。また、職員を小学生に見立てて発表する調査研究では、伝えることの難しさを強く実感しました。分かりやすい言葉で話すことは勿論ですが、そのために準備することが多く、さらには他の資料との組み合わせや話の構成など、学芸員の知識以外で求められる部分も意外とあることが分かりました。今回の発表でアドバイスをたくさんいただいたので、今後の発表にも役立てたいと思います。

▼玉城 夢乃 さん：沖縄国際大学▼

実習期間中は毎日がとても忙しく、「これも学芸員の仕事なんだ!」と驚くことばかりでした。大学1年次から学芸員資格取得のために講義を受け、知識を蓄えてきましたが、いざ実践してみると、知識不足と経験不足を痛感すると共に、自分の成長も実感することができました。朝、開館作業を行い、夕方に退館するまで博物館にいて様々な来館者の方と接する機会がありました。実習生として博物館で実習を行っていますが、私も学芸員の一人であるという意識で対応し、笑顔や嬉しそうな姿、興味深げに話を聞いて下さる姿を見て、学芸員として働くことのやりがいを感じられたのではないかと思います。まだまだ足りていない部分が多くありますが、この経験を糧に、今後も頑張ります。

▼松浦 朋華 さん：大阪国際大学▼

博物館実習を通して、学芸員の仕事をこなしていくには、沢山の知識と経験、そして体力が必要だということを感じました。調査研究・資料収集、展示公開、保管・管理はもちろん、施設維持管理の為に毎朝・夕の点検から教育普及等、様々な業務をこなさなければならないと体感しました。このように、幅広い業務を経験させていただいて、とても貴重で充実した実習を行うことが出来ました。

▼稲福 詩織 さん：沖縄県立芸術大学▼

短い期間でしたが、実際に博物館のお仕事を体験する中で、学校の授業だけでは分からなかった展示をすることの難しさと、他のスタッフの方々との連携や協力すること大切さを学ぶことができました。調査研究発表に関しては、学んだ知識を最大限に活用しながら、分かりやすく魅力的な解説を作成することに苦労しました。自分の言葉で作品を説明することの難しさを痛感すると同時に、作品の奥深さや魅力にも再度気付かされることができました。また、博物館実習を通じて、博物館の役割や意義についても改めて考えることができました。博物館は、地域の歴史や文化を紹介し、子どもたちに教育の場を提供する重要な存在であり、私たちが大切にしなければならない財産でもあったと感じました。この経験を活かし、将来的にも博物館や美術館での活動に携わることができればと考えております。



宜野湾市立博物館

- 入館料：無料
- 開館時間：午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）
- 休館日：毎週火曜日、祝祭日、年末年始（文化の日、慰霊の日は開館）
※火曜日と祝祭日が重なる場合は、翌日の水曜日にも休館になります。

